

淡水カメの開腹方法の紹介

三根佳奈子・谷口真理

654-0049 神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園

Laparotomy method of freshwater turtles

By Kanako MINE and Mari TANIGUCHI

KOBE-Suma aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, 654-0049, Japan

ある生物種の繁殖や食性などの生態情報を得るには、解剖は実に重要な研究手法である。ところが、多くの淡水性カメ類は、頑丈な甲羅を保有しており、その頑丈さ、特に背甲と腹甲が強固に接合しているために、開腹に手間がかかり、多くの淡水カメ研究者は解剖によるサンプル採取に手を焼いていることと思う。筆者らは過去に1000個体以上の淡水カメをノミとカナヅチを用いて開腹し、解剖を行なってきた。ここでは著者らが考案した簡単に行える開腹方法について紹介したい。これにより日本の淡水カメの研究に寄与できれば幸いである。

開腹方法

① カメの腹甲を作業側、頭部を右手側に向け、背甲と腹甲の接合部を上にして甲羅を立て、左手(利き手が右手の場合)の中指、薬指、小指、手の腹でカメの腹部をつかみ、カメを固定する(図①)



図①



図②

② 背甲と腹甲が接合している中央の腹甲板(abdominal)と第6または第7縁甲板(marginal)の間にノミの刃の一角をあてる。その時ノミは、残りの左手の人差し指と親指でつかみ、斜めに固定する(図②)。

③カナヅチを用いて腹甲板と縁甲板の縫合部に沿って、利き手でカナヅチを用いてノミを打ち、甲羅を割っていく。まず、後肢方向に、後肢の付け根部分の鼠蹊甲板付近まで、ノミをカナヅチで何度か打ち、割っていく(図③)。



図③

④ 後肢の付け根部分の鼠蹊甲板(inguinal)は、特に強固なため、ノミを甲羅に対して垂直に立て、力強くカナヅチを打ち、骨を割る(図④).



⑤ 次に前肢方向に、前肢の付け根部分の腋下甲板(axillary)付近まで、同様にノミをカナヅチで何度か打ち、割っていく(図⑤).

⑥ 前肢の脇部分の腋下甲板(axillary)は、特に強固なため、同様にノミを甲羅に対して垂直に立て、力強くカナヅチを打ち、骨を割る(図⑥).



⑦ 同様にもう一方の背甲と腹甲の接合部分の骨を割り、腹甲と背甲の骨を完全に切り離し終えたら、四肢周辺の皮膚を腹甲に沿うようにして、カッターで切り、開腹する(図⑦).

⑧ 開腹後の腹甲部の切断面(図⑧)と個体(図⑨). 開腹したら、通常の解剖作業をすすめる.



⑨ 以上のような手法で開腹することにより、ノコギリを使うよりも短時間で解剖を行うことが可能である.